

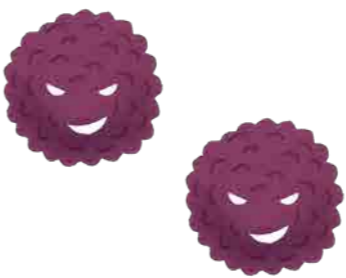
健康に自信がある人も定期的に必ず「がん検診」を！

日本人の死亡原因の第1位は「がん」で、幅広い年齢層でトップとなっています。自覚症状が表れる前に検診を受けることが何より大切です。

問 保険健康課 ☎ 84-0327

「がん」ってなんだろう？

人の細胞は日々生まれ変わっています。「がん」とは、正常な細胞がつくられるときに遺伝子に傷がつき、がん細胞に変化して分裂を繰り返して増殖に制御が



からなくなった状態です。正常な細胞が、がん細胞に変わることは誰にでも起こり、通常はがん細胞ができると免疫細胞がその都度退治していきます。

2人に1人は「がん」

「まだ若いから大丈夫」「自分には関係ないだろう」と思っていないませんか。「がん」は今や2人に1人がかかり、そのうち3人に1人が亡くなる時代です。しかし、医療の進歩により、一部の「がん」では早期発見・治療が可能になってきました。早期発見・治療ができれば完治の可能性

胃がんとピロリ菌の関係

胃がんには、胃の粘膜に住みつくヘリコバクター・ピロリ菌（通称ピロリ菌）が深くかかわっています。ピロリ菌に感染して胃粘膜の萎縮（加齢・老化現象）が進むほど、胃がんが発生しやすくなります。胃粘膜の萎縮の程度はペプシノゲンという消化酵素ペプシンの素を測定すること（ペプシノゲン法）でわかります。血液中のペプシノゲンの濃度が基準値以下の人は、6〜9倍胃がんになりやすいことがわかっています。

知っていますか？ 胃がんリスク検診

胃がんリスク検診は、ピロリ菌感染の有無を調べる検査」と「胃炎の有無を調べる検査」を組み合わせて、胃がんになりやすいか否かをリスク（危険度）分類するものです。



		ピロリ菌の感染	
		なし	あり
胃粘膜の萎縮	なし	A群 ピロリ菌の感染はなく、萎縮による胃の病気になる可能性は低い状態です。	B群 ピロリ菌の感染があります。萎縮が進む前に胃内視鏡検査やピロリ菌の除菌をお勧めします。
	あり	D群 胃の粘膜の萎縮が進んでピロリ菌がすめない状態です。医療機関の受診をお勧めします。	C群 ピロリ菌の感染により、萎縮が進行しています。胃内視鏡検査やピロリ菌の除菌をお勧めします。

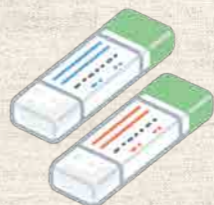
リスクの判定方法

胃がんリスク検診は、A、B、C、Dの4段階及びEで判定します。

こんな兆候があったら？

●胃がんの兆候

- 胸やけがする
- 黒い便が出る
- 食の好みが変わる



●肺がんの兆候

- 咳がとまらない
- 痰が良く出て血が混ざることがある



●大腸がんの兆候

- 便に血が混ざっている
- 便が細くなった
- 便秘と下痢を繰り返す
- 便が残る感覚がある



が高くなります。「早期のがん」では症状が出ないことが多いので、早期発見のためには定期的ながん検診の受診が大切です。

ただし、自覚症状がある人や経過観察中の人は、検診ではなく医療機関にご相談ください。

検診の紹介

がんを見つけるには、定期的ながん検診を受ける事が大切です。町で実施している胃・肺・大腸がん検診について紹介します。

●胃がん検診

バリウム（造影剤）と発泡剤（胃を膨らませる薬）を飲み、胃のレントゲンを撮ることで病気を発見する検査です。

●肺がん検診

胸のレントゲンを撮ることで病気を発見する検査です。喫煙歴や職歴、自覚症状によつては、危険性が高い方のみ、痰にがん細胞が混ざっていないかを調べる検査を行います。

●大腸がん検診

2日分の便を取って専用キットで便を提出する検査です。大腸に異常があると出血が見られるので、便に血が混ざっていないかを調べます。

○町の集団がん検診

今回ご紹介する3つのがん検診を同時に受けられる集団がん検診を実施します。ぜひご利用ください。

検診内容 胃がん・肺がん（喀痰検査）・大腸がん
実施日 5月16日(月)・17日(火)・18日(水)・19日(木)

※健康カレンダーに記載している日程から変更しましたのでご注意ください。

○胃がんのリスク検診

町では、特定の年齢の方（40・45・50・55・60・65・70歳までの5歳刻みの方）を対象に実施しています。

対象者の方は、胃がん検診または胃がんリスク検診を受診できます。受診希望の際は必ず予約が必要です。

日時 9月2日(金)、3日(土)、5日(月)、6日(火)、7日(水)

問 保険健康課 84-0327

リスクの高い人は精密検査を受けましょう

「胃がんになる危険度が極めて低い人たち（超低リスク群）」は、精密検査の対象から除外されます。「危険度の高い人たち」は、胃がんがないかどうかを確かめるための精密検査を受けてください。

